

# アジアの一員として、深く学ぶ。

国際関係学部の最大の特徴は、東アジア・東南アジア・南アジア・西アジアに絞った具体的な地域研究を柱に置いている点だ。

9ヶ国語の言語をはじめ、国際関係学科と国際文化学科のそれぞれで政治・経済・社会・文化・歴史・芸術に至るまで、アジアを多角的に深く学ぶことができる。

## 中国語

一口に中国語と言ってもさまざまな方言があり、私たちが学ぶのは、〈普通語〉と呼ばれる、広範囲に通用する全国共通語です。〈北京語〉などの言い方を聞いたことがあるかもしれませんが、普通語は日本の標準語に相当します。

## コリア語

コリア語は、韓国と北朝鮮で話されている言葉。よく知られているように文字は「ハングル」で表記されています。日本語とよく似た構造をもっている、語順や助詞の使い方、語彙の上でも多くの共通点があります。

## インドネシア語

インドネシア語は、言語学上マレー語に属しています。また、この言語は、語彙の面で外来語が多いのが特徴です。これは、マレー諸島の多様な民族間の、また、渡来したヨーロッパ人との交易語として発達してきたことに由来します。

## タイ語

皆さんが学ぶのは、中部タイ方言を基礎とする標準タイ語です。その独特な文字は、一見、複雑で覚えるのが大変に思うでしょうが、じつは英語と同じ表音文字です。非常に合理的で、それほど難しくはありません。

## ベトナム語

ベトナムは日本、韓国と同じく漢字文化圏に属しています。ベトナム語には漢語を起源とする語彙が多く、日本人にとっては親しみやすい外国語の一つと言えるでしょう。音感的な美しさも楽しめる言語です。

## ヒンディー語

「ナマステー」（こんにちは）は、インドのヒンディー語です。この地域には、たくさんの言語が存在し、その数200以上。中でも最多の話者をもつのがヒンディー語。その数3億数千万で、世界第三位の堂々たる勢力なのです。

## ウルドゥー語

ウルドゥー語と聞いて、いったいどの国を思い浮かべますか。この言葉が話されている国は、緑豊かなパンジャブ平原、世界最古の都市モヘンジョ・ダロの遺跡やガンダーラ仏教美術をもつパキスタンです。

## アラビア語

アラビア語は広漠とした地域に生きてきた人びとの間で生まれ、発展してきた言語です。ゆえに力あふれる男性的性質をそなえていますが、粗野な性質ではなく、美しいアラビア詩を今に伝えるリズムカルな言葉でもあるのです。

## ベルシア語

ベルシア語は中世以来、ベルシア（現在のイラン）はもとより中央アジア、北インド、トルコの一部を含めた広大な地域で話される共通語でした。パーザール、キャラヴァンといった語はベルシア語に起源をもつものです。この知られざる言語を通じて、シルクロードを放浪してみませんか。



## アジア概論

アジアの人口は世界人口の60%を占めます。また歴史的にも数々の古代文明が栄えました。この不思議な魅力を持つアジアが、20世紀後半に勃興しはじめたその理由、その様相を、他の地域と比較しながら浮きぼりにしていきます。

## アジア史

日本近代国家がアジアに対して何を行なったか。私たち日本人がアジアとの現在の関係を理解するに前に、まず知っておくべきことがあります。講義の前半では、十五年戦争（1931～45年）時代の日本と中国・朝鮮・東南アジアとの関係を中心に議論し、当時の対アジア政策の展開過程を検討していきます。

## 文化人類学

この講義は、「比較文化論」の延長上に位置づけられます。文化の中でも、世界観に焦点をあて、宗教と世界観の関係、近代を特徴づける個人、民族国家、資本主義がどのような世界観から発生し形成されたかを考察します。

## 地域研究入門

インターネット上に多量に流れる東南アジアのさまざまな情報。これをどう評価し、情報として利用するかのソフトウェアはありません。私たちが地域（現地）を「歩く・見る・聞く」方法で評価の切り口を見つけるべきではないでしょうか。

## アジアの女性問題

ここでは、アジアの女性を取りまく状況について、近代以降にあらわれてきた問題を取りあげます。とくにその根底にある性別役割分担論をはじめ、「家族」・「労働」・「売春」などの問題にも触れていきます。

## ヒンドゥー教文化

仏教とヒンドゥー教は、ともに古代インドが生んだ偉大な文化。両者が誕生した歴史的背景を探るとともに、その後の時代の両文化の消長を通じて、現代に与えている文化的影響を多面的（思想、宗教、芸術）に、地理的に考察します。

## 食文化論

文化に密接に関わっている「食」。何を、どう料理して、どんな作法で、誰と食べるかを観察するだけで、その社会の自然環境、生産形態、信仰、家族関係、美意識、歴史などが明らかに。ここでは、その「食」を通じて文化を論じます。

## 映像文化論

キーワードは「オリエンタリズム」と「セクシュアリティ」。オペラ、音楽映画、ビデオクリップなどの映像と音楽の中で「他者」の存在がどのように構築されているかを、歴史的社会的文脈を考慮しつつ論じていきます。



# 「知りたい!」ことを 深く濃く学べる、多彩なゼミ。

2年次以降の履修となるゼミ(演習)は、  
1年を通してのテーマを、報告者の発表をもとに討議するという形式の研究会。  
教師と学生がともに学び、意見交換をする場だ。その中のふたつのゼミをのぞいてみた。

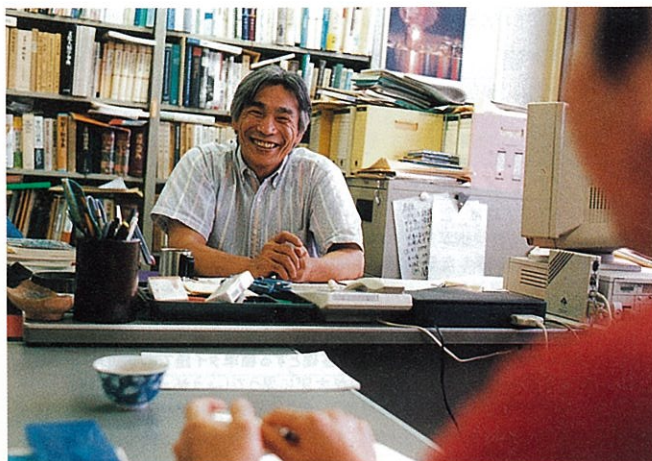
## 韓国をフィールドに地域研究を行う、新納ゼミ。

### 新納ゼミ

新納 豊 助教授 (国際関係学科)

#### in seminar

新納先生のフィールドは韓国。5日に一度開かれる韓国の定期市場が研究対象だ。90年には1年間現地へ行き、市場での定点観測を繰り返した。演習Iでは「非西洋においては、近代化が主として西洋化を通じておこなわれている」ことの意味を考える。地域にこだわらず、文明の比較という大きな視野で、急がず議論を進めているという。演習IIでは『変貌する韓国社会』を教材にしている。担当学生が要約整理し、論点、問題点をしぼり込み、討議する。「その際、本の内容を自分の身近に置き換え、自分の問題として捉えることで、発言が活発になっているんじゃないでしょうか。」と新納先生。時には終電がなくなったり、場所を居酒屋に変えてまでも討議が続くことが。「学生にはモノに即して考えてくれ、と言っています。地域としては韓国なんだけど、その国、その人間を見るのに、モノの変化が一つのバロメーターとなるでしょう。」韓国との距離がどんどん近くなり、興味を持って学ぶことができるゼミだ。



#### From Teacher

素材として、韓国や、その他の社会の問題を考えるのですが、その中で自分の考えを実用化させることが大切だと思います。文化系の大学では、キャリア的なものの蓄積は難しいと思う。多くの事柄、社会問題に関心を深めること、そしてただその知識を持っているだけでなく、どうしたらそれを現実に実用化できるか、を学んで欲しい。地域研究というのは決して地域主義ではないんです。そこから世界を考えていく、そのための韓国研究です。

#### 国際関係学部 教員リスト(主要担当科目)

生田 滋 (東南アジアの歴史)  
石田 英明 (ヒンディー語)  
磯崎 定基 (西アジアの歴史)  
井上 貴子 (南アジアの芸術)  
臼杵 英一 (国際関係論)  
内田 知行 (東アジアの経済)  
遠藤 元 (国際経済論)

大石 敏之 (中国語)  
岡田 宏二 (東アジアの歴史)  
小笠原 良治 (西アジアの文化)  
押川 典昭 (インドネシア語)  
尾関 直子 (英語)  
片岡 弘次 (南アジアの文化)  
片倉 邦雄 (西アジアの政治)

小泉 康一 (タイ語)  
小島 麗逸 (アジア概論)  
小林 啓志 (英語)  
篠田 隆 (南アジアの社会)  
柴田 善雅 (国際経営論)  
高桑 守 (比較民俗学)  
多田 博一 (南アジアの経済)



# フェース・トゥ・フェースだから、 理解も深まる。ゼミは少人数主義。

国際関係学部の教授・講師陣は皆、第一線の「研究者」の横顔を持っている。  
ゼミの舞台となるのは各先生方の研究室。あなたが学ぶのは、  
躍動するアジアのまさに“たった今”なのだ。

## アジアの歴史に生きるヒントがある、井上ゼミ。

### 井上ゼミ

井上 貴子 助教授 (国際文化学科)

#### in seminar

近代インドの女性の音楽芸能にはじまり、南アジアの近現代の芸術・文化にまでフィールドを広げる井上先生。芸術・文化の側面から社会変動を読みとり、歴史を見直す研究を重ねている。井上ゼミでは、演習Ⅰで現代社会におけるものの見方の変化を学ぶ。『創られた伝統』『知識人とは何か』など、翻訳の文献を多数用い、討議を行う。演習Ⅱでは、ガンディーの思想を現代の観点から考察するのがメインテーマである。現代社会でも取り上げられている環境や教育などの問題に、ガンディーの言葉からヒントを見いだすのが狙いのひとつだ。演習Ⅱの教室では、『Village Swaraj』を文献にし、10名の学生が担当制でそれぞれのチャプターを要約しながら授業がすすめられる。インドに4年間留学し、以来毎年調査に訪れる井上先生の現地での体験談も興味深い。井上ゼミの特徴は、「地域＝小さな世界」から「地球全体＝大きな世界」を見渡すといった視点の位置にある。その視点から見えてくるのは、私たちがこれまで知ってきた世界とはきっと別なものであるに違いない。



#### From Teacher

小さなことにとらわれないで、人生はいろいろあるんだよ。こんな価値観を、学生たちに身につけてもらえればと思っています。現代の私たちが、アジアの歴史から学ぶものは多くあります。たとえば『Village Swaraj』には、「義務を果たして自由がある」という言葉があります。自分たちがいかに恵まれていて、幸せで、消費していて、空気を汚していて…。こうしたいろいろな思いを若いうちにきちんと感じとることは大切なことだと思います。

田辺 清 (比較芸術学)  
中堂 幸政 (西アジアの経済)  
富井 幸雄 (法学概論)  
新納 豊 (東アジアの社会)  
新里 孝一 (東南アジアの政治)  
朴 侗玄 (人文地理学)  
蜂屋 邦夫 (東アジアの文化)

林 武 (西アジアの政治)  
原 隆一 (西アジアの社会)  
樋口 桂子 (美学概論)  
平野 正 (東アジアの政治)  
広瀬 崇子 (南アジアの政治)  
福家 洋介 (東南アジアの社会)  
古川 友章 (英語)

古川 宣子 (コリア語)  
エドワード・マーゲル Jr. (英語)  
松井 弘明 (国際政・法各論)  
松山 鉄夫 (東アジアの芸術)  
三尾 忠志 (東南アジアの経済)  
山田 稔 (ペルシア語)

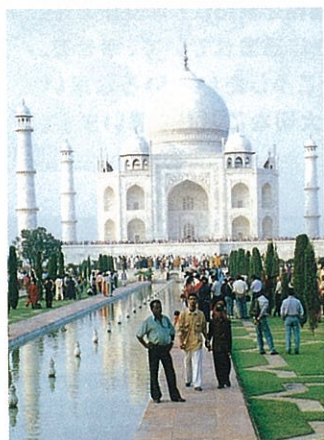


# アジアに立つ。アジアを歩く。 日本では味わえない「感動体験」が あなたを待っている。

## 国際関係学部海外研修

地域言語	研修地	大学名
コリア語	韓国(ソウル)	高麗大学
中国語	中国(上海)	上海師範大学
	中国(北京)	北京大学
インドネシア語	インドネシア(バンドゥン)	パジャジャラン大学
タイ語	タイ(バンコク)	チュラーロンコーン大学
ペルシア語	イラン(シーラーズ)	シーラーズ大学
ヒンディー語	インド(ジャイプル)	ラージャスターン大学
ウルドゥー語	パキスタン(カラーチー)	カラーチー大学
アラビア語	エジプト(アレキサンドリア)	アレキサンドリア大学
ベトナム語	ベトナム(ハノイ)	ハノイ国家大学

国際関係学部ならではの制度が「海外研修」です。これは、日常の講義で学ぶ地域を訪れ、3～4週間前後滞在するもの。アジア諸地域の言語・政治・経済・社会についての造詣を深めるのが目的です。研修期間のうち10日～2週間を提携校での短期集中講座にあて、地域言語や現地事情の講義を受けます。残りは当地の社会環境や史跡などを見学する研修旅行。地域の人々の生活や文化を自分の目で見て確かめ、さらに深く地域を理解していきます。目と耳と足でアジアを味わう感動体験。この海外研修は2年次に行われ、4単位が卒業単位に組み入れられます。





# 「もっと、じっくりアジアを学びたい！」 そんな気持ちを“海外留学制度”でバックアップ。

国際関係学部では、海外留学を積極的に推進するために、さまざまな制度を設けています。中国、韓国、インドネシア、ベトナム、タイ、インド、パキスタン、エジプト、イラン、アメリカ、イギリスなど多彩な地域への留学をバックアップしています。

## 海外留学制度

- 単位互換制度:学部在籍のまま、1年間留学した場合、留学先大学で取得した単位は、30単位を上限として学部の単位に認定されます。
- 奨学金制度:国際関係学部の奨学金留学生には、次の2種類があります。

	(財)日本国際教育協会短期留学推進制度	大東文化大学奨学金留学生
留学期間	10～12ヶ月	10～12ヶ月
派遣人数	各地域 若干名	国際関係学科1名 / 国際文化学科1名
給付金	月額 ¥80,000	地域別奨学経費月額×留学月数 往復渡航費も支給

以上の他にも、大東文化大学「国際交流センター」(全学)の交換留学制度があります。

# バラエティ豊かな「スキルアップ講座」。 実社会で役立つ知識・技能をオープンカレッジで修得。

大東文化大学では、正規カリキュラム以外にも社会に出てから役立つスキルや資格が得られるさまざまな講座と、心身を豊かにするユニークな講座が、幅広くオープンカレッジで開講されています。

## 開講講座の一例 (\*印は有料)

教職講座	専門実践講座(3年:2月)* / 直前対策講座(4年:5月)* / 教職講演会(1～3年:年数回)
司法・国家I種・司法書士等の試験対策	入門・基礎講座I(1年)* / 基礎講座II(2年)*
国家II種・地方上級・宅建等の試験対策	基礎講座I(1年)* / 基礎講座II(2年)* / 宅地建物取引主任者試験*
パソコン講習	講習1:Windows入門1 / 講習2:Windows入門2 / 講習3:ワープロ(Word)入門1 講習4:ワープロ(Word)入門2 / 講習5:表計算(Excel)入門1 / 講習6:表計算(Excel)入門2 講習7:電子メール(Outlook Express)入門 / 講習8:ホームページ作成法 講習9:UNIX入門1 / 講習10:UNIX入門2
外国語	英語会話:(初級)・(中級)・(上級)* / 中国語会話:(入門)・(初級)・(中級I)・(中級II)・(上級)* 韓国語:(初級)・(中級)* / 実用タイ語入門* / フランス語:(入門)・(初級)* / ドイツ語:(入門)・(初級)* TOEFL受験対策* / 英語検定受験対策(2級)* / 英語検定受験対策(準1級)*
簿記	日商簿記検定講座(3級)商業簿記* / 日商簿記検定講座(2級)商業簿記・工業簿記*
旅行業務	一般旅行業務取扱主任者試験対策* / 国内旅行業務取扱主任者試験対策* / 通訳ガイド入門*
その他	書道* / 水泳(初心者)* / 水泳(中級者)* / シェイプアップエクササイズ* ダンベル&チューブエクササイズ* / 美術さまざま / 東西文化と日本



# アジアから大東大へ。 From Asia ~

アジアから、  
たくさんの留学生を送り出し、受け入れて  
彼らの一人ひとりが、アジアを

## 若い国バングラデシュからの留学生、日本見聞録。

スルターナ・ナスリン (国際文化学科3年)

バングラデシュからの留学生ナスリンさんは、一昨年1年間日本語別科で日本語を勉強し、現在国際文化学科の3年生。バングラデシュでは大学院を卒業しているが、人口の多いバングラデシュでは、大学院を卒業できてもその40%の人が望む職に就けない。よりよい仕事を求めて、ナスリンさんもさらに勉強を続ける。「バングラデシュで3ヶ月間日本語を習っていました。向こうでは日本への関心も高く、日本語の先生も増えています。私も卒業したら国へ帰り、国際関係を教える先生か、日本語の先生として、働きたいのです。」大学のある東松山市で一人暮らし。日本人が海外留学するのはまた違った場面で、留学の難しさを感じている。「私の国では90%がイスラム教徒。私もイスラム教徒なので、豚肉は食べるできません。そのためほとんど自炊をしなければいけないのでたいへんです。またイスラムの教えでは日に5回のお祈りが欠かせないのですが、昼間は時間がなくてできません。本当はいけないことですが、仕方がないんです。」美しいサルワール・カミーズ(南ア



アジアの民族衣装の一つ)を身にまとい、流暢な日本語でもの静かに話すナスリンさん。宗教の違う国で生活することの難しさは想像以上だ。「日本はちょっと忙しいですね。大学では友達と話したり、先生も助けてくれるので楽しいですが、できれば、もっともっと多くの人と友達になりたい。」時には日本人のよそよそしさに、ホームシックを感じることもあると言う。大学では、お隣の国インドのヒンディー語、英語も履修、南アジアの政治、社会の授業はもちろん得意分野。でも、漢字では少し苦勞をしているとも。バングラデシュは独立してまだ26年の若い国。日本のように古い文化、歴史を持つ国に興味を持っている。「生け花など伝統的な日本の文化にも触れてみたいです。」大東文化大学での勉強はあと1年。ナスリンさんや他のアジアからの留学生の大学生活を、私たちは



日本人としてもっとサポートし、そしてバングラデシュ、他のアジアの国を知ることで、もっと日本の良さも伝えることができるだろう。「私の国について知りたいことがあったら、何でも聞いて欲しいですね。」



# 大東大からアジアへ。 To Asia

としてアジアへ、  
いるのも、国際関係学部の特徴のひとつ。  
つなぐかけ橋になっている。

## ベトナムと向き合った。新しい自分と出会えた。

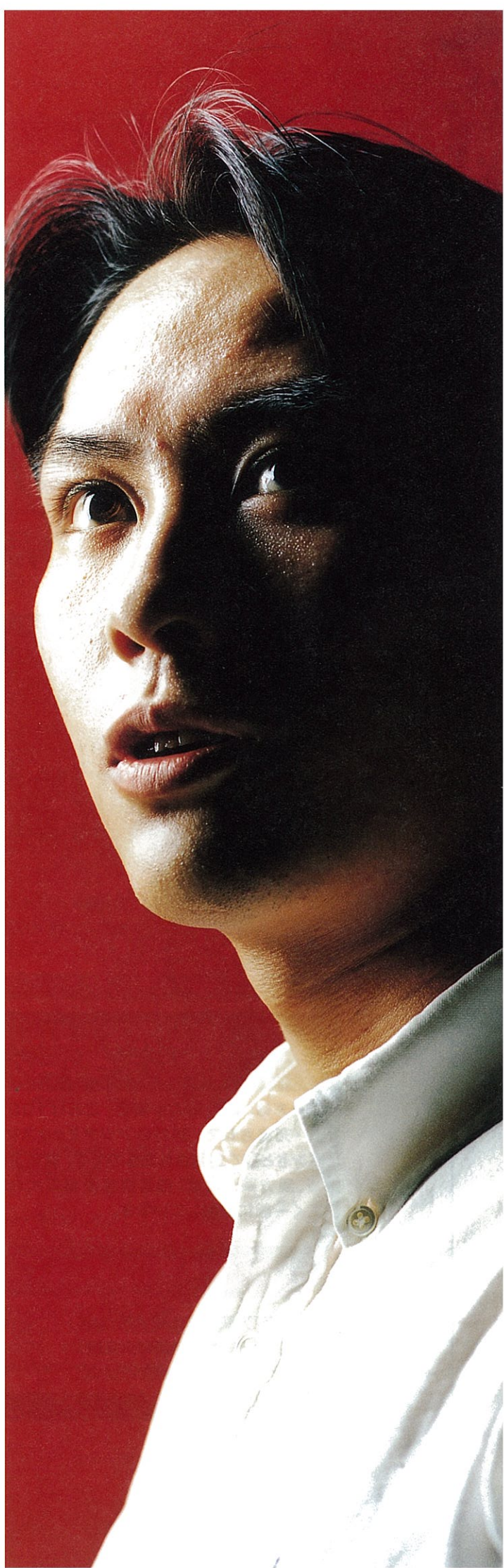
田中善陽（国際文化学科 平成11年卒業）

1975年、ベトナム戦争終結の年に生まれ、1995年、ベトナムとアメリカの国交回復の年に入学した田中さん。もちろんその事実は、入学後ベトナムに興味を持ってから知ったこと。「世界史は好きでした。でもこの大学に入るまでベトナムのことはよく知らなかったんです。どちらかというところと西欧に興味がありました。」入学後、少数派だったから、と必修科目にベトナム語を選び、2年次には1ヶ月の地域研究科目海外研修でベトナムへ行く。それがきっかけになり、“留学したい”という気持ちが湧いてきたという。そして3年の時に1年間、ハノイ国家大学へ留学。「ベトナム語学科で1年勉強しました。ベトナム語は中国語の流れを汲んでいるので、漢字読みが多く、声調が難しい。1年がんばって日常会話はまず大丈夫ですが、まだまだ勉強することはたくさんあります。」ハノイの学生生活は、午前中が大学での授業、暑くなる午後はベトナムの学生たちと町のカフェなどで交流を図るなどして、友人を作った。その結果、ついた語学力。「特にカルチャーショックを受けたこともなく、すぐベトナムの生活には慣れました。向こうの人は明るく、気さく。日本にも興味を持っています。日本人のようにとに



かく目的地まで行こうという感覚はなく、途中、どこでも休める、という余裕がありますね。」大学生生活の合間に、ベトナムハノイ放送局で日本語放送のアナウンサーや日本語教師といったアルバイトも経験。「日本にいてはなかなか出来ないアルバイトを

したことで、逆に日本語というものを改めて見直すこともできた。日本の文化、歴史など良さを再発見したところがありますね。」将来は日本語の教師、海外青年協力隊、ユニークな視点から、アオサイ（ベトナムの民族衣装）のオーダーメイドサービスなど、やりたいことがたくさん。「留学してみて、何でもできるんだ、という気持ちが生まれました。でも僕が特別ではなく、誰もが僕のような経験ができると思います。この大学にはそういうきっかけが転がっているんです。アジアからの留学生も多いし、どんどん話しかけて、自分の世界を広げていけると思います。」国がどこであれ、最終的には個人にならなければいけない、と田中さんは言う。大東大から育った国際人らしい発言だ。





# 「アジアをもっと学びたい、もっと伝えたい」が、 国際関係学部の原動力です。

国際関係学部の教員と学生が一体になって運営する、地域研究学会。  
アジアを学ぼう、アジアを知ってもらおう、そして自分たちがアジアの一員であるという自覚から  
この学会は出発しています。おもな目的は、学生の皆さんの自主的な研究活動、イベントのバックアップ。  
毎年春には、さまざまな研究班の発表の場として、盛大に開催されるアジアミックスをはじめ、  
秋にはアジアウィークなどを企画・運営しています。



## 学内で、アジアを体感。「アジアミックス」

コンセプトは、「アジアを五感をとおして体験してもらおう」。アジアミックスは、  
国際関係学部主催で毎年開かれる恒例イベントです。映画祭、民族衣装展、  
写真展、古本市などが催され、なかでもアジアの味覚を実際に体験できる  
エスニック料理祭は、人気を博しています。



## アジア研究発表の晴舞台。 「アジアウィーク」

そもそもは、研究班の発表会。これは1996年より、内容を  
拡大・充実させて、前期のアジアミックスにたいする大きな  
イベントとして企画されたものです。講演会や、アジア音楽の  
演奏、漢方茶の試飲、韓国式模擬結婚式など、研究班の活動  
を広く一般に公開しています。



研究班紹介 もっともっと知りたい…。関心は、アジア全土に広がる。

- アジア映像文化研究班 (ANK)
- 地中海研究班
- 韓国研究班
- アジア総合安全保障研究班
- 民族・宗教研究班
- 国際協力研究班
- アジアスポーツ研究班 (ASK)
- 民族衣装研究班 (SARASA)



## 学内に居ながらにして、 アジア各地を探求。 「民族資料室」

ここは、まさにアジア空間。国際関係学部  
に付置される民族資料室には、学部スタッ  
フが現地調査で手に入れた民族衣装や  
楽器のほか、生活用具、各種儀礼用品と  
いった品々までが勢揃い。もちろん、見る  
だけでなく、気軽に手にすることもできます。



また最近では、アジア地域研究の総合情報センターとしての機能を目指して、文献、映像、音響に関する資料も拡充中。ぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

## 好奇心をさらに深く満たす、「大学院 - アジア地域研究科」

本学には、学部で得た知識・経験を基盤にして、さらに専門的にアジアを研究する大学院「アジア地域研究科」が併設されています。“国際的視野を持つ人材の育成”を目標に、「アジア現代化研究」・「アジアの伝統規範の研究」を柱にした科目構成からアジアのダイナミズムを考察。政治・経済社会・文化などあらゆるジャンルを多面的に学びながら、世界の中におけるアジアの特性と位置づけを明確にしていきます。

## アジア研究をさらに深く掘りさげる場。「現代アジア研究所」

この研究所は、国際関係学部付置研究所として1991年に設立されました。学部教員の研究と資料収集の場として機能し、教科書の編集から、学術共同プロジェクトまで多彩な活動を行なっています。

### 現代アジア研究所の活動

#### 共同研究プロジェクト

- 「アジアの歴史統計編纂」研究会
- 「国民統合の理論と制度—国民国家論の再検討」研究会
- 「アジア諸民族の生活誌」研究会

#### 現代アジア研究所定期刊行物

- 年1回発行、各研究・教育機関に向けて  
『ASIA 21 ニュースレター』No.1～No.8 (1991～1998)
- 年1回発行、学生向けテキスト  
『ASIA 21 基礎教材編』No.1～No.8 (1991～1998)

#### その他の出版物

- アジア入門シリーズ
  - 『世界の中のアジア・中国』/小島 麗逸著
  - 『比較経済史入門—農業社会から工業社会へ』/多田 博一著
- 資料集
  - 『アジア諸国の対米ドル為替相場の変遷史』  
/アジア歴史統計編纂委員会編集
- 翻訳
  - 『インドの伝統技術と西欧文明』平凡社/A.J.カイサル著
  - 『イスラム技術の歴史』平凡社/A.Y.アルハサン・D.R.ヒル著
- 70周年記念出版
  - 『イスラーム諸国の民主化と民族問題』未来社/広瀬 崇子編
  - 『少数民族の生活と文化』未来社/片岡 弘次編
  - 『アジアの芸術と文化—エロスをめぐって』未来社/田辺 清編
  - 『風土・技術・文化—アジア諸民族の具体相を求めて』未来社/原 隆一編
  - 『発展途上国の経営変容』未来社/篠田 隆編



# 取得できる資格・進路も多彩。 未来への展望が、遥かに開ける。

すでに国際関係学部は多くの卒業生を送り出している。  
アジアに関する深い理解と知識を持つ本学生は社会から  
大きな期待とともに受け入れられている。

## 免許・資格

社会の多様化、複雑化にともない、ますます専門的知識や技術能力が必要とされる時代。在学中に、免許や資格を取得して、就職に役立てたり、勉強の励みにしたいという学生が増えている。大東大では、そんな意欲をもった学生たちを力強くバックアップ。各種公開講座も積極的に開催しています。

### 国際関係学部の資格・免許一覧

	学科	
	国際関係	国際文化
中学校教諭一種免許状	社会	社会
高等学校教諭一種免許状	公民・地理歴史	公民・地理歴史
司書	○	○
司書教諭	○	○
社会教育主事	○	○
学芸員(博物館学)	○	○

## 就職

学生それぞれの志望に沿った就職を実現させるために、本学の就職部は、周到的サポート体制で強力にバックアップ。ガイダンスはもちろん、各種説明会、対策講座、就職セミナーなどを用意して、学生のニーズに応じています。また、国際関係学部は、アジアを標榜する企業の注目を集め、就職率はほぼ100%。就職先の主体となる商社や貿易関係の企業は、学生の希望と一致しているといえますね。

### 国際関係学部の就職実績

	学科	
	国際関係	国際文化
卸売・小売業	37%	46%
製造業	12%	14%
サービス業	28%	27%
建設・不動産業	6%	2%
金融・保険業	9%	2%
運輸・通信業	5%	2%
公務員	1%	1%
教員	1%	-
その他	-	5%



# 国際関係学部から、社会へ。 そして世界へ。

大学生活のあとには、さらに新しい世界が広がる。多くの卒業生たちは、  
大学で学んだことをベースに、どんな道歩んでいるのだろうか。  
何人かの先輩を訪ねてみよう。



## “自分探し”の日本留学。

### 山口 アナ エリーザさん

上智大学 大学院外国語学研究科在学中  
平成10年3月 卒業

ブラジルではアジアについて勉強する機会が少なく、そのために来日しました。私は日系3世ですが、両親は日本語を話さないので、最初は日本語学校で勉強し、そのあと大学へ進みました。4年の時に、帰国するか、大学院へ行くか、迷ったんです。でもゼミの担当教授の強いバックアップもあり、受験を決意しました。先生が支えになってくれたことが心強かったですね。上智では「在日稼働日系ブラジル人」をテーマに研究を進めています。私自身、自分のアイデンティティについて、ずっと考えていましたので、このテーマは私にとってとても意義があると思っています。将来はブラジルに帰り、日本と何らかの関わりを持つ仕事をしたいですね。

## 自分の手でアジアをもっと伝えたい。

### 知田 佳奈子さん

インダス インターナショナル株式会社勤務  
平成6年3月 卒業

南アジアに興味があり、国際関係学部を選びました。友人や先生など環境もアジアを勉強するには最適な場所でしたし、近づけた、という実感を持ってました。ウルドゥー語を選択し、卒業後、パキスタンの国際近代国語学院に留学しました。2年間の留学で、どんなところでも何をやっても生きていけるなあ、と自信を持ちました。現在の会社へは実はパキスタンで知り合った方を通じて入社したんです。大手旅行会社などへ、パッケージツアーなどの商品を企画し売っていますが、将来は大東文化大学の海外研修のアレンジを手がけられたらいいなあと思っています。アジアをもっと伝えたいですし、多くの人にどんどん現地へ行ってもらえたらうれしいです。



## 記者の目で再確認するアジア。

### 有馬 康晴さん

日刊自動車新聞社勤務  
平成2年3月 卒業

一期生なんです。珍しい学部だな、と思って入学しました(笑)。アジアについての興味は入学後、出てきました。先生もユニークで楽しかったです。在学中は自動車部に所属していました。子供の頃から自動車が好きで、現在の職業はまあ、ほとんど趣味が高じてといったところかもしれません。実は現在の勤務先からうちの大学へは求人に来ていなかったんです。他の就職活動の最中にクチコミで情報を仕入れて、就職試験を受けました。大学の専攻とは全く違う職種だと思われるでしょうが、自動車業界がござってアジアへ進出した背景もあり、何かしらアジアとはつながっていると思います。記者というプロの目からアジアをもう一度見られるというのは、我ながら興味深いですね。



## より広い世界へ目を向けたい。

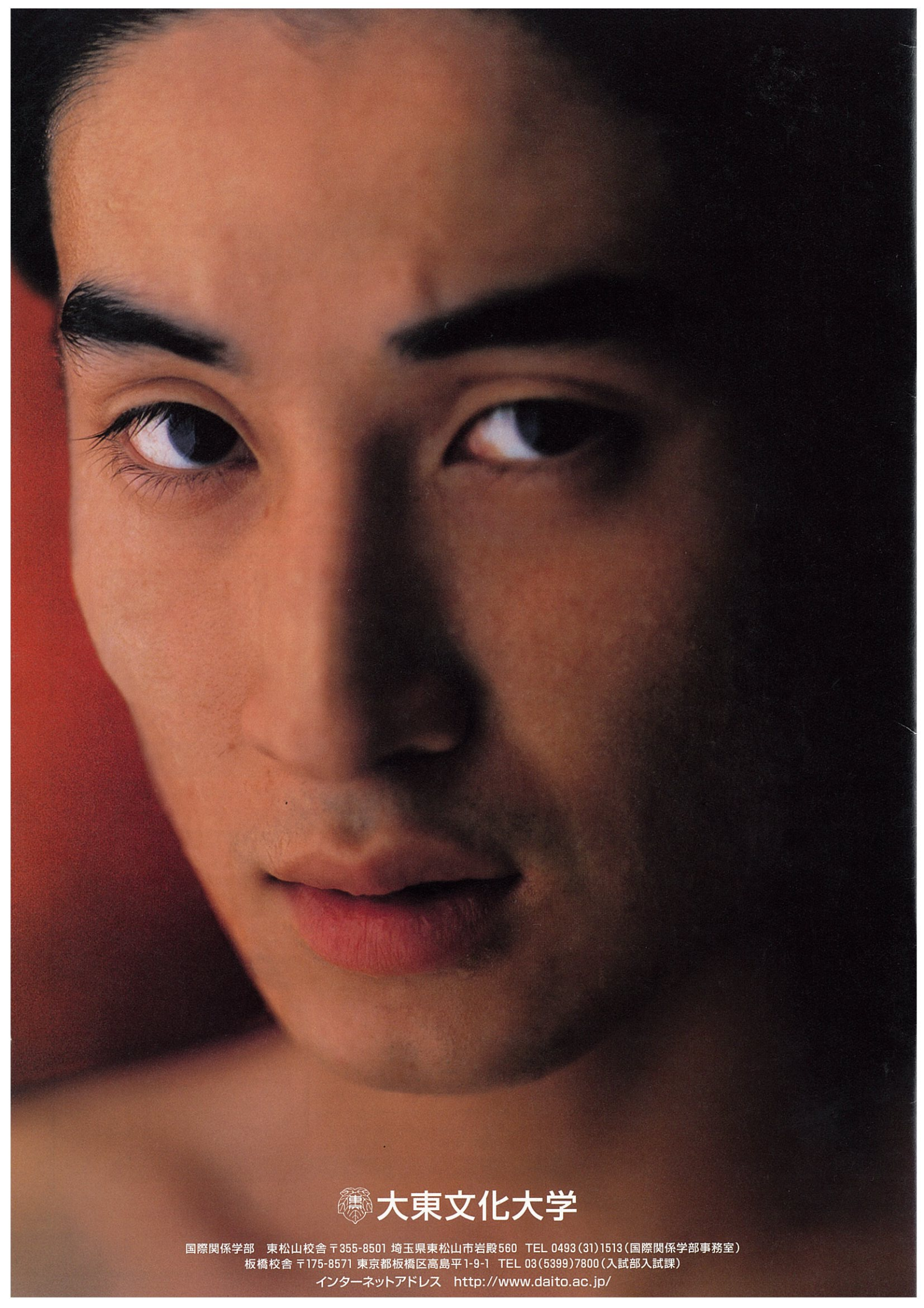
### 泊り 周平さん

旭電化工業株式会社 海外部 勤務  
平成10年3月 卒業

人と違うことが出来た大学生活だったと思います。語学は少数派だったこともあり、ウルドゥー語を選択しました。思い出深いのは、大学の研修で行ったパキスタン。初めての海外旅行でした。日本とあまりにも違う生活文化で本当に驚きました。1年学ぶより、1ヶ月その国を見る方がいい経験になりますね。就職はアジア関係の仕事への憧れもありましたが、現実的には、難しいところもあり、現在の会社に決まりました。幸い海外部に配属になり、学生時代から世界に目を向けていたことがこれから役立つようになるんじゃないかと。大切なのはこの世界でも人とのコミュニケーションだと思っています。これからは英会話の勉強にも励みます。







 大東文化大学

国際関係学部 東松山校舎 〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560 TEL 0493(31)1513(国際関係学部事務室)  
板橋校舎 〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1 TEL 03(5399)7800(入試部入試課)  
インターネットアドレス <http://www.daito.ac.jp/>